

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201446		
法人名	有限会社 コンフォール		
事業所名	グループホーム こんふおーる		
所在地	札幌市北区新川西3条3丁目12-15		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_007_kani=true&JigyosyoCd=0170201446-00&PrefCd=01&VersionCd=007
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 9 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲山が一望でき、季節ごとの景色を見る事ができる。又、ホーム裏には畑があり、苗の成長過程や収穫を楽しむ事が出来る。毎月行事があり、外出や外食行事を楽しみ、御家族様参加の行事も取り入れ、楽しいひと時を過ごしている。ケアに関しては、入居者様の状態が違っても、代替えケアによって可能に出来るようスタッフ一丸となり常に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念を追求したケアの取り組み】
利用者が地域の中でのんびりと楽しく過ごせるよう各種行事参加などの外出や一人ひとりに合わせた支援の徹底に努め、管理者と職員が一体となって理念を追求したケアに取り組んでいます。

【地域との交流推進】
地域行事への参加、ホーム行事の納涼祭やクリスマスパーティなどへの住民協力、ホーム主催の住民対象の救命救急研修会等の開催、児童施設の子供たちとの交流、多数のボランティア来訪など地域との交流が盛んです。

【暮らしやすい住環境】
明るく清掃の行き届いた館内と窓から季節を感じる景観、近くのお店への買い物や公園への散歩など住みやすく暮らしに便利、交通の便がよく家族も訪問しやすい場所にホームが位置しています。

【家族との連携強化】
利用者一人ひとりの様子を記載したホーム便りの送付、ホーム来訪時や運営推進会議参加の家族との率直な意見交換、家族のホーム諸行事への参加協力など家族との連携が進んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に貼り、常に確認できるようにしている。理念を踏まえ入居者様の意見を尊重できる様積極的に意見を取り入れ季節を感じて頂けるような行事の実施、日々入居者様にゆっくりと過ごして頂ける事を意識した業務改善も定期的に行っている。	利用者が、地域の中でのんびりと楽しく過ごすよう主旨の理念を案内パンフレット記載や館内に掲示しています。職員は、日常業務において理念に基づいたケアサービスを意識し、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念に基づき、入居者様と散歩に出た際や、スタッフが顔を合わせた時等地域の方と挨拶や会話をしている。又、近所で行われるお祭りの参加や、ホームの行事等で地域のボランティアの方に来て頂き交流をする場を設けている。	お祭りなど地域行事への参加やホーム主催の納涼祭やクリスマスパーティ、救命救急等の講習会に住民の参加や協力を頂いています。さらに、バラエティに富んだボランティア慰問もあり地域との交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度行っている運営推進会議に参加して頂き、業務・実践内容等を話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度推進会議を行い参加者から意見を頂き、議事録はファイルに閉じスタッフがいつでも見る事ができ、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、行政関係者、町内会役員、民生委員、家族をメンバーとして定期的に開催していますが、家族の出席が少なくなってきました。会議では運営状況報告や意見交換を行い、ホーム運営に活かすようにしています。	家族の参加が少ないので継続的な出席依頼とマンネリ化しがちな会議について開催テーマによっては住民を含めて広範囲に呼びかけるなど効果的な会議のあり方の検討を望みます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口になり、担当者と電話や直接話し協力関係を築いている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、積極的に情報交換等行っている。	代表者や管理者は、行政担当者と常時電話連絡をしています。書類提出や諸手続きで担当窓口を訪れて相談や情報交換を行って市との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で身体拘束について学んでいる。	身体拘束や虐待防止のマニュアルを整備し、職員の外部関連研修会受講やホーム内での業務を通して身体拘束のないケアを理解し、実践に努めています。日中の玄関施錠は有りません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で学んでいる。又、入居者様に変色が出来た場合、いつ、どのように出来たかを話し合い記録に記載しスタッフ間で共有している。スタッフの対応や口調等についても注意し合う事で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等にて学ぶ機会を作り、個々の必要性に応じて活用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時に説明する場を設け、不安や疑問等があった場合には都度話し合い、説明し理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望は、日々聞き取れるよう何気ない会話から探る様心掛ける。又、御家族様は、毎月のお便りに各自の様子を記載し、面会時等や必要時に電話している。全て記録等に記載し、スタッフが情報共有できるようにし、日々のケアや行事等に反映もしている。	ホーム便りで利用者一人ひとりの様子を伝えています。家族の来訪も多いのでその都度、意見や要望を聞いています。家族との要望等は全て記録し、全職員が共有しながら運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時や日々話し合いの場を設けたり、毎月ミーティングを行い意見や提案を聞き、反映している。	管理者と職員は、日常業務や毎月のミーティングで自由に話し合いをしており、法人代表者と話し合う機会も多くあります。また、管理者は、職員との個別面談も必要に応じて実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は必要時常に話し合い、又、スタッフの声も大事にしながら必要時は業務改善等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に介護技術の実演を実施したり、現場を通しスタッフ間で各スタッフの介助方法や考え方を共有しスキルアップを図る。又、外部研修等の呼びかけを行い研修を受ける機会を取り持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	見学や外部研修等にて意見交換をしたりと、サービスの質向上に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に面談を行い、不安な事や困っている事、要望等に耳を傾け、安心してもらえるよう十分な話し合いを行っている。又、御本人様の気持ちをスタッフに伝えながら、情報の共有、問題解決の相談をしより良い環境作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の面談時に、御家族様の抱えている事に傾聴し、少しでも取り除けるよう話をして、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様・御家族様と面談した上で、その時何を必要としているのかを見極め、その方に合った生活を提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が主体となる様な行事や日常生活を取り入れ、一緒に作業をし、喜びを共有したりお互いに支え合う関係を築いている。一方的なケアは行わず要望を聞きながら話し合いをし、出来るだけ過ごしやすい様な環境を作れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が協力出来る所は協力して頂き、こちらからも提案しながら共に御本人様を支えていく関係を築いている。又、御家族様との時間も大切にしていきたいと考え、行事の参加の呼びかけ等も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「昔行った事がある」「懐かしい場所」等を日々の会話から聞き行事の場所にしたり、手紙を出したい、電話したい等があれば御家族様に協力してもらい支援している。	利用者の電話や手紙を手伝い、馴染みの場所等への外出希望には対応するように努め、状況に応じて家族に協力をお願いしています。知人等のホーム来訪者には歓迎して、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が苦手な方にはスタッフが間に入り会話を繋げたり、行事やリビングの席等気の合う同士が過ごせる様工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談に応じたり、必要に応じて情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活からも入居者様の意見等取り入れるよう努め、一人ひとりに合った生活が出来るよう、会話の中、ケアプランの説明時等に御家族様の意見も合わせながら検討している。自身の希望等を伝えるのが困難な場合は、選択肢で聞き出したりと工夫している。	職員は、利用者との日常的接触から概ね思いや意向を把握していますが、把握困難な時は家族からの情報やケアプランなどの記録を参考にし、利用者と望む事を根気良く話し合いながら支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談又は、入居者様・御家族様の情報をもとにミーティングで話し合ったり、書面にて全スタッフ周知している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃心身の状態観察を行い、有する力を生かして出来る部分を維持する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話の中や面会時、ケアプランの説明時要望等聞き、スタッフ間で話し合いながら作成している。	モニタリングやアセスメントを行い、全職員による意見を参考にして3ヵ月毎にプランの定期見直しを検討しています。プラン見直しが必要な際は、本人、家族、時には主治医とも話し合いながら現状に即した内容になるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に細かく記載し、常にスタッフ間で情報を共有し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練は年2回行っている。行事の際は、地域のボランティアの協力があり、入居者様が楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や必要時(体調不良時等)は受診に行っている。入居前からのかかりつけ医がある場合は、スタッフ対応や御家族様の協力にて通院できる様支援している。往診の結果や受診の内容等、電話連絡かお便りのコメントに記載し御家族様に報告をしている。	24時間・365日対応の協力医療機関による月1回の訪問診療が、今年8月より2回になって利用者や家族に安心感があります。かかりつけ医受診には原則として家族にお願いしていますが、家族が付き添い出来ない場合は職員が対応し、受診結果を家族へ報告しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力機関の看護師と常に連絡できる体制にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり、入院中の情報交換を密に行い関係を大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談時又は、必要時に重度化した場合の話し合い等行う。入居者様の状態変化に応じて、協力機関の主治医・御家族様と話し合いホームで出来る部分、難しい部分を十分に話し合っている。	重度化対応の指針を作成して事前見学や入居時に家族へ説明し、入居後の利用者の状態変化に応じて家族や主治医と以後の対応を相談しています。職員もホームの方針を共有してケアサービスに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	町内会と合同で救急救命講習の実践を行ったり、日々のケアの中やミーティング等で緊急時の対応について話し、実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、運営推進会議の時等町内の方の協力体制等話し合っている。	年2回の定期避難訓練を実施していますが、住民の避難訓練参加が少ないため、地域との協力関係強化に取り組んでいます。ホーム内の防災点検は毎日実施し、備蓄品類も備えています。さらに今後、不足分の充足を検討中です。	冬期間の停電時における暖房対策の検討と消防署や地域との協力関係強化のための働きかけを今後も継続的に進めることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々意識しケアをし、スタッフの対応で気になる点があれば都度話し合う体制を取っている。	利用者の入浴や排泄関連などケアサービス時の声かけを工夫して人格尊重やプライバシー保護に配慮しており、管理者も職員に適切なアドバイスをしています。介護関連の記録なども適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事のメニューの自己決定や、15時のおやつ飲み物等日々自己決定できる様働きかけ、難しい場合は選択肢を出したり等自己決定が出来るようスタッフが導く対応を取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様の生活スタイル(一日の流れ)に合わせ対応し、外出や買い物等希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を一緒に選んだり、髪型にも気を配りその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や後片付けを行い、味付けや具材等聞き次回の調理に活かしたりしている。	一部の利用者は食事の手伝いを行い、職員と一緒に食事を取りながら和やかに過ごしています。献立は季節行事や誕生日に利用者の希望を取り入れ、外食や庭でのバーベキューなど変化のある食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量等については、毎日記録をしている。栄養を考えながらメニューを作成し、一人一人に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。必要な部分は支援し、口腔内の確認も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チャートを使用し、個々の排泄パターンを把握。入居者様が出来る事は、声掛け等の工夫で行って頂き、必要な部分は支援する。	排泄チャートによって一人ひとりの状態を把握し、適時な声かけ誘導によって利用者全員のトイレ排泄を可能にしています。下着類も常に清潔を心がけて気持ちよく過ごせるように配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝手作りヨーグルトの提供。毎日体操を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決めているが、希望があれば入浴できる。入浴中会話をしたり等楽しい入浴ができるよう支援している。	午後は利用者の諸活動のため、午前中に週2回の入浴を原則として実施しています。入浴を拒む利用者には日時の変更や声かけの工夫をしながら実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切とし、自室で読書やテレビ鑑賞、ラジオを聞いて過ごす方もいる。御本人様が昔から好きなスポーツを、録画して観たり、昔の歌謡曲を録画してリビングで上映したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見ながら確認し、症状の変化時は主治医へ連絡体制を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物に出掛けたり、好きなテレビを鑑賞したり、又、月の行事も季節に合った行事を設定し、楽しんで頂けるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を聞きながら、散歩や外出、買い物をやっている。御家族様の協力もあり、外泊や外出もしている。町内のお祭りやホームの行事等でも町内の方と協力しながら行っている。	ホーム周辺や公園への散歩、店での買い物に行っています。祭りなど地域の行事見学、外出行事として水族館や大型都市公園などにも出掛け、家族との外泊もあるなど外出の機会を増やして変化のある暮らしを支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使いたい時に渡したり、一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様、御家族様と話し合いながら、継続できる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけや室内の温度・湿度調整を行い快適に過ごせる様配慮している。又、行事の写真を貼ったりし、思い出話をし次の行事に活かしたり等工夫している。	共有スペースのリビングは、季節感のある景観を楽しめる大きな窓によって明るく、トイレや浴室など他の共有部分を含めて清掃が行き届いています。リビングには季節の飾りや鉢植え、笑顔のある写真などで親しみのある居場所となり、利用者は日中をのんびりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフが間に入りながら気の合う入居者様同士と一緒にテレビを見たり、会話したり工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の馴染みの物や写真を飾る事で、家庭の様なくつろぎが出来るよう工夫している。	大収納のクローゼットが設置されて居室内の整理が容易になっています。利用者は好みの調度品やテレビなどを自由に持ち込んで配置し、居心地良く暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手すりを設置し、バリアフリーとなっている。廊下等には事故につながる様な物は置かず、自立した生活が送れるよう見守りも行っている。		